

第491回触媒科学研究所コロキウム

独自の有機硫黄触媒の開拓

Design of Organosulfur Catalysts

白川 誠司 教授

(長崎大学 大学院総合生産科学研究科)

2025/8/25(月) 17:00-18:30

創成科学研究棟 4階 セミナー室B・C

<http://www.cat.hokudai.ac.jp/access.html>



有機オニウム塩化合物は、有機合成の様々な場面で活用される。例えば、第四級アンモニウム塩やホスホニウム塩は、有機分子触媒として広く利用されるだけでなく、有機合成のための有用な試薬としても使用される。一方、関連する有機オニウム塩化合物の一種である第三級スルホニウム塩に関しては、その有機試薬としての有用性は広く知られていたものの、触媒としての利用例は限定的であった。この状況を打破すべく、第三級スルホニウム塩化合物の特徴を考察し、触媒としての利用法を模索した。本講演では、独自に設計した第三級スルホニウム塩触媒の開発と応用、さらにスルホニウム塩触媒の開発で得た知見を活かした、有機硫黄触媒開発のさらなる展開について解説する。

略歴

1997年3月	日本大学 生産工学部 卒業(清水正一 教授)
2004年3月	京都大学 大学院理学研究科 博士後期課程修了(丸岡啓二 教授)
2004~2005年	コロンビア大学 ポスドク[JSPS PD] (James L. Leighton 教授)
2005~2007年	東京大学 大学院薬学系研究科 ポスドク[JSPS PD] (小林修 教授)
2007~2009年	日本大学 生産工学部 助教(清水正一 教授)
2009~2014年	京都大学 大学院理学研究科 特定准教授(丸岡啓二 教授)
2014~2023年	長崎大学 大学院水産・環境科学総合研究科 准教授(PI)
2023年~	長崎大学 大学院総合生産科学研究科 教授(PI)現職

受賞歴

2013年	文部科学大臣表彰 若手科学者賞
2014年	有機合成化学協会 奨励賞

問合せ先: 浦口 大輔

共催: 触媒科学計測共同研究拠点, 学際統合物質科学研究機構